



現場から（最近のニュースから）

評価の基準



日本でもアメリカでも活躍した野球選手のイチロー氏が、日本でもアメリカでも殿堂入りを果たしました。すばらしい活躍をしてきているので、殿堂入りの資格が与えられた1年目の今年に満票で殿堂入りを果たすだろうと期待されていました。しかし、日本では「国内での活躍」を重視されるので満票とはならず（92.6%）、アメリカでは日本人初の殿堂入りになりましたが、満票までたった1票だけ届かず99.7%の結果でした。アメリカで、だれがイチロー氏に投票しなかったのか、いまでもあれこれ言われていますが、本人のイチロー氏は「1票足りないというのはすごく良かったと思う。色んなことが足りない、人って。自分なりの完璧を追い求めて進んでいくのが人生。不完全であるってことはいいなって。生きてる上で、不完全だから進もうとできる。そこに向き合えるのはよかった」とコメントしています。

野球界にとっても良い影響を与え、選手を引退してからも指導者として、野球だけではなく、あらゆる面で人々に良い影響を与えているイチロー氏の殿堂入りは、すばらしいことですし、すべて偉業だということはまちがいありません。

ただ、その結果を見るのではなく「イチロー氏」という人は、満票であれ、一票足らずであれ、まったく同じだという事実を見ることも必要ではないでしょうか。私たちは、どうしても評価された後の結果で人物を見ますが、たとえイチロー氏が満票をとっても、イチロー氏が完全だということではないのです。幸いに(?)満票ではなかったので、不完全だから進もうとできると言われたのですが、たとえ満票でも、イチロー氏が進む道は同じだったのではないのでしょうか。

何かの試験の点数、試合の得点、人の目による採点などで私たちは、人を評価したり、自分も評価しています。テストの点が悪かったり、試合で負けてしまったり、就職試験で採用されなかったりしたら、「自分が劣っている」と思うってしまうのが当然のようになっていきます。しかし、それは本当なのでしょうか。自分が良いと思うことが良いことで、悪いと思うことが悪いというのも当然のように思っています。その枠を取り払おうということで、「多様性」を主張されますが、それも実は人間が見たところの違いがあるという前提から始まっているので、比較したあとで結果を受け入れようということに過ぎません。そのように「人間が定めた基準」によって私たちは評価、判断しています。しかし、実は「すべての人は」お互いのことを何か言うことができない、まったく同じ問題を抱えているのです。そして、その中でいろいろなことを見ているだけなのです。すべての人が抱えている問題を知り、その解決を知るとき、はじめて本当に必要な人生の歩みを進んで行くことができます。すべての人の問題はいったいなにか、それについてお分かちしたいのです。



救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあい、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になりつつあります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になる、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快樂に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをし、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。



それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。



神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス・キリストです。イエス・キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してください(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち砕いて勝利なさいました(1ヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス・キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。



もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス・キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス・キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の神様として受け入れます。私の罪を赦してください、私を救ってくださいましたことを感謝いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」